

虫かごの  
中だよ

!



!

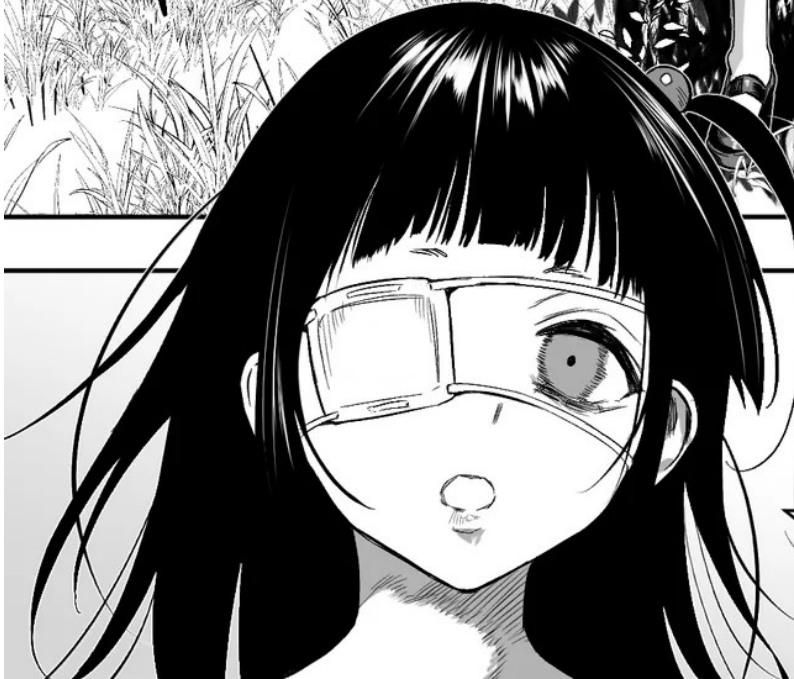
んんは...?

ガッ  
ハッ



話せたんだね

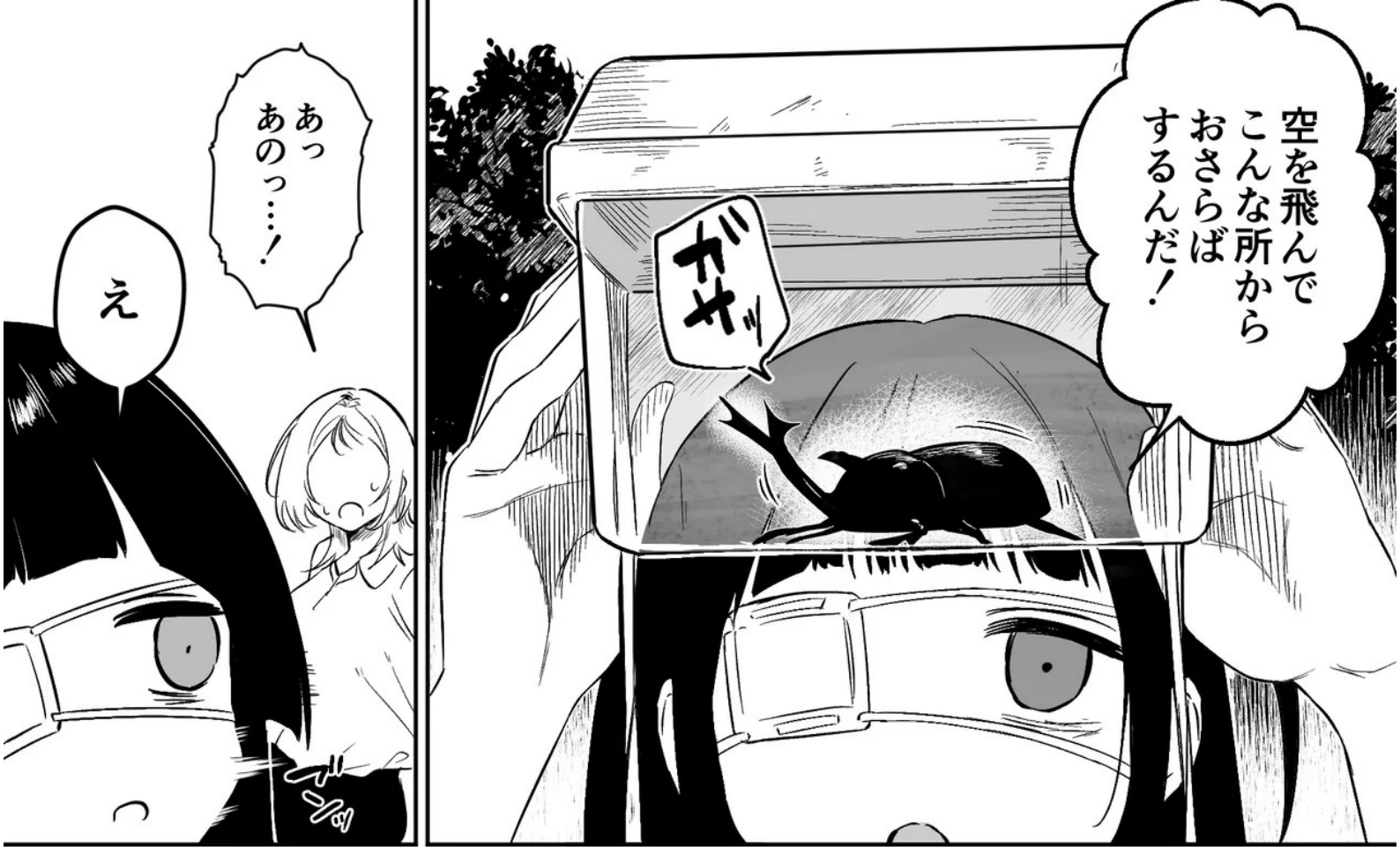
やっぱり



お前は  
ボクの妖精  
だったんだ

さあ

早く魔法の  
合言葉を  
教えて



外…？

足された  
んだよ

この土地の  
人間だけで  
ずっという  
血が片寄る  
からね

記憶が  
残ってるのも  
こんな所に  
寝てるのも  
珍しいけどね

加護が甘くて  
工場から歩いて  
来ちゃった  
のかな？

なっ…  
えっ…!!

?

!?

よく  
わかんないけど…  
どっかにコンビニ  
か何かあるかな？

それか  
誰か大人の  
人でも—

カ  
カ  
カ  
カ  
カ



こんなの  
どこにでも  
あるよ

たねつけやしろ  
種付社

だから  
さつき  
言ったでしょ

ねえ  
教えて……  
本当にここは  
どこななの……?

虫かごの中  
だって



今日は  
どこに行っても  
ヤバイよ

始まった…  
“祭”が



ボクは  
環<sup>たまゆ</sup>由

この田舎で

ボクだけが  
まだ壊れて  
いないんだ



行こう

お姉さん

ボクのは  
田舎には



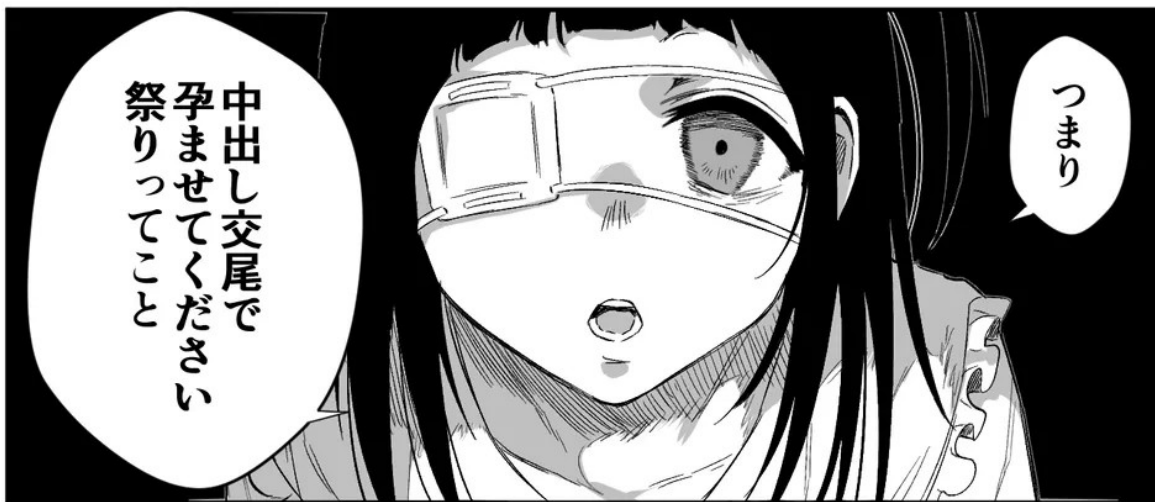
『上位存在』  
がいる



たねたまわり  
 “種賜り”  
 を願って  
 土地の人間全員で  
 お祝いするのが  
 種賜祭



一年に一度  
 そんな  
 カミサマ  
 上位存在  
 への感謝と



中出し交尾で  
 孕ませてください  
 祭りってこと

つまり



種賜り…？

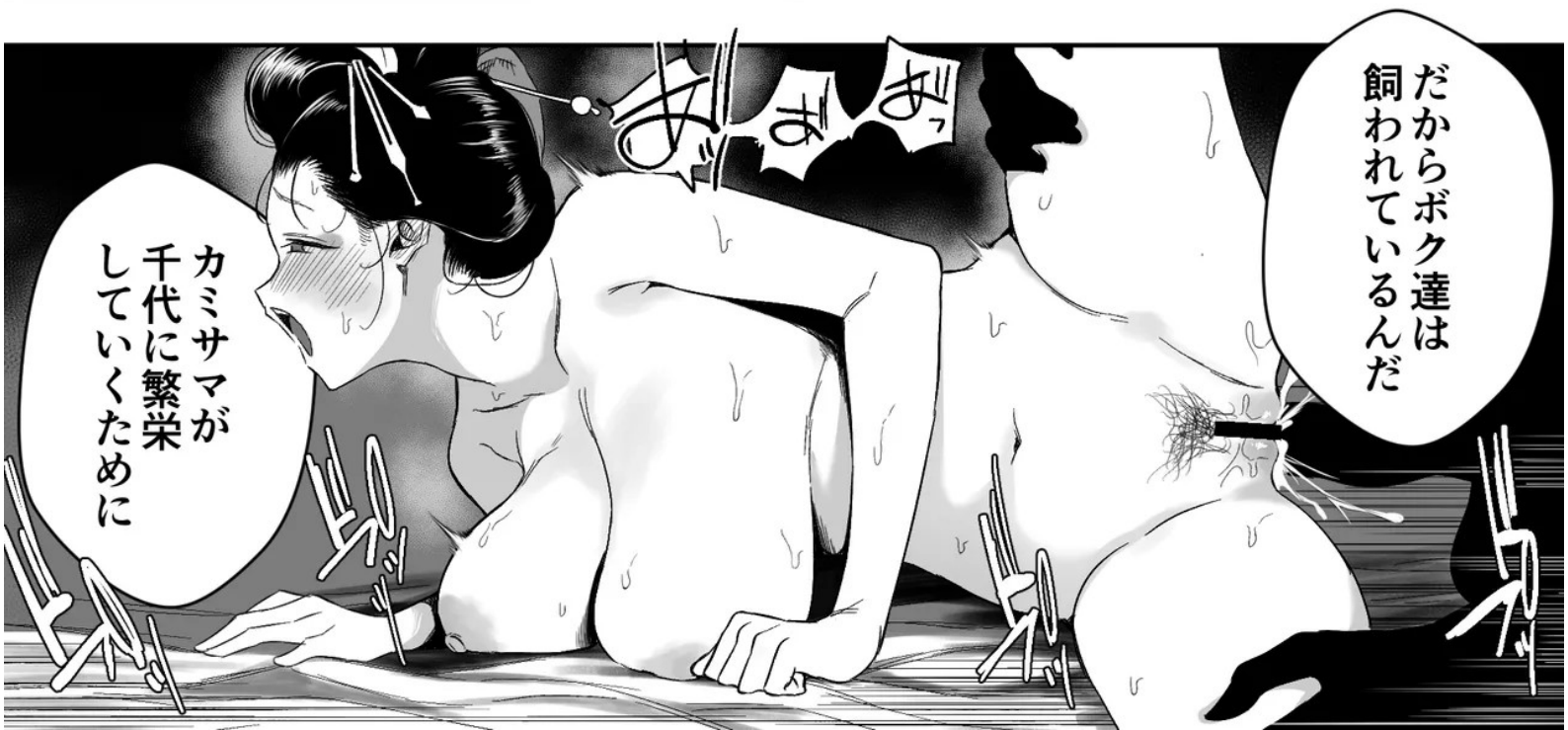


……  
 カミサマは

……!!  
 なんで  
 そんな事…！



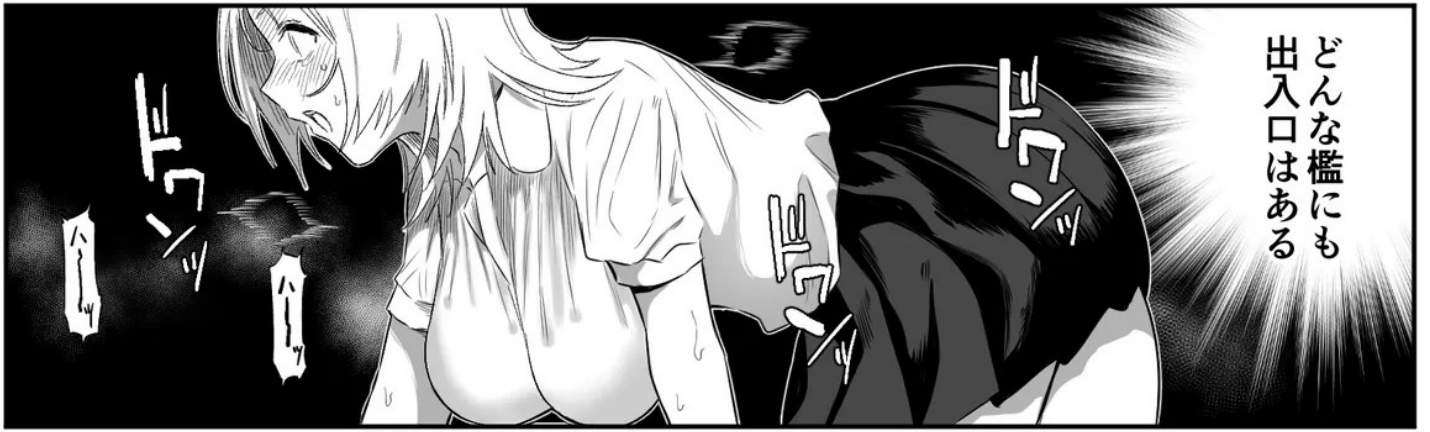
人間と  
交わる事でしか  
子を成す事が  
出来ない



だからボク達は  
飼われているんだ

カミサマが  
千代に繁栄  
していくために





どんな檻にも  
出入口はある



だけど  
そこを通る  
条件が揃うのが

年に一度の  
この夜しか  
ないんだ



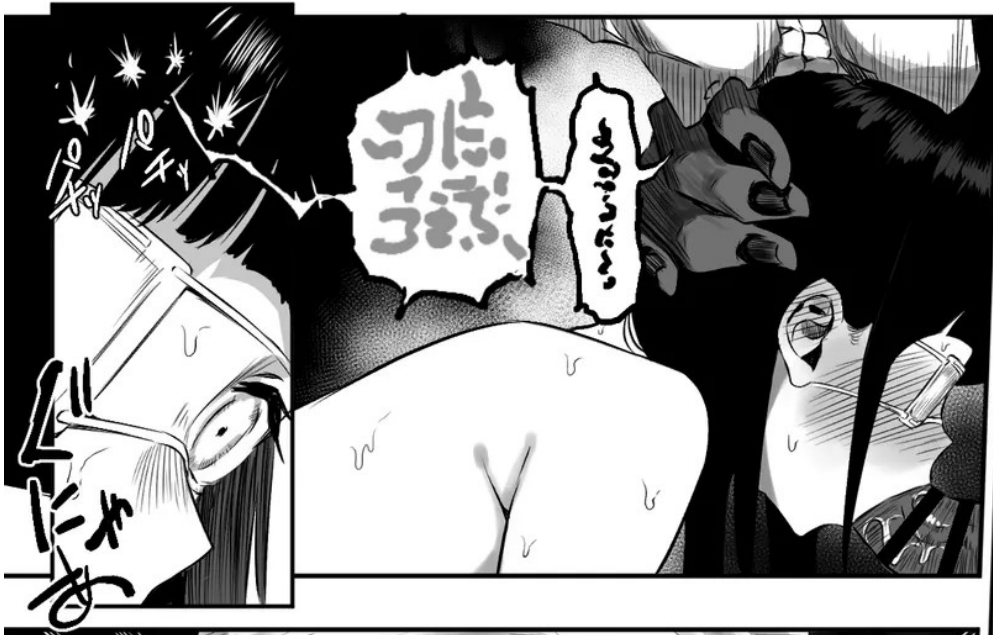
大丈夫だよ



一か八か  
覚悟を決めて  
一緒にそこを  
目指そう







去年も  
一昨年も  
せつかく  
守ってこれた  
のになあ





ハアッ

ハアッ

あッ

あうっ

あうっ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ



あっ...

ううっ

あああああ

ボクは

加護を  
受けていない

処女

処女

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ



あああッ

加護を  
受けると  
恐怖や  
理不尽に  
鈍感に  
なれる

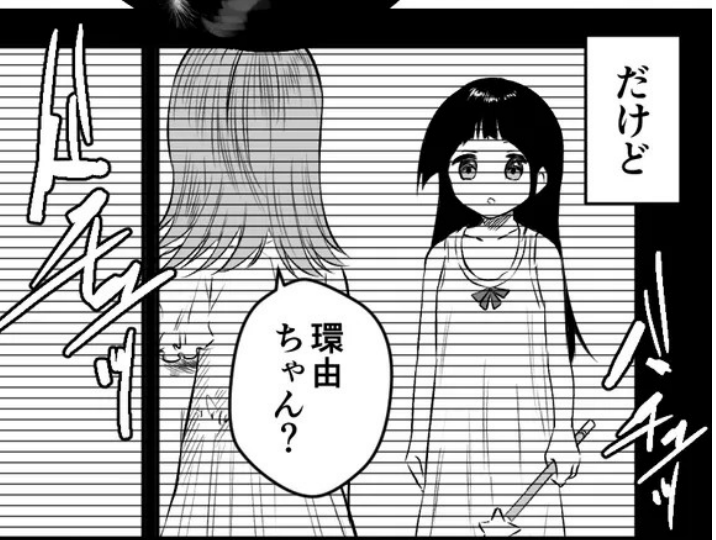
いやッ

あッ

あッ



誰だっけ？



環由  
ちゃん？

だけど



あまあま

あまあま

気持ちいい

気持ちいい

気持ちいい



あまあま

あまあま

あまあま

あ

あまあま

あまあま

あまあま



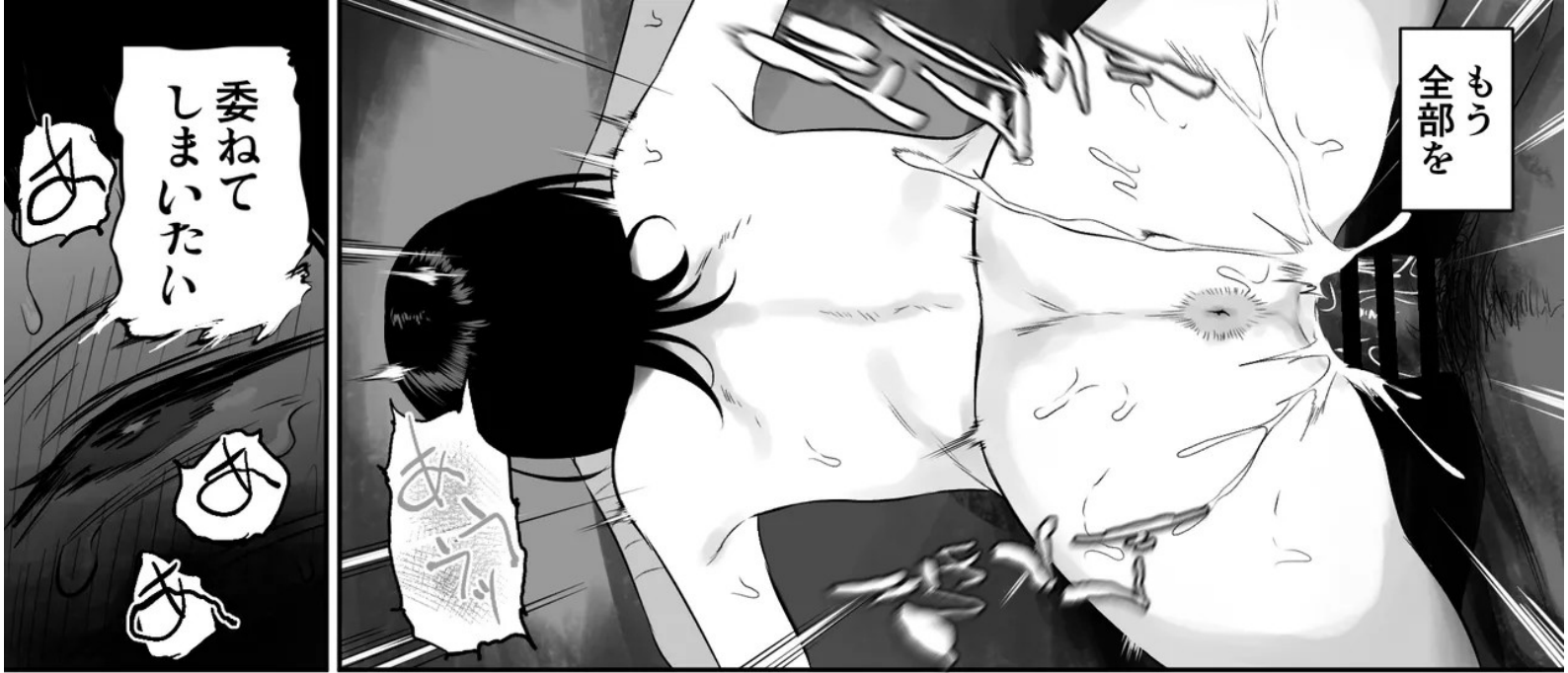
この快感に  
屈して  
しまえば  
どんなに  
楽だろう

おんっ♡

ありがとう  
ごぎいましゅっ

おっ♡

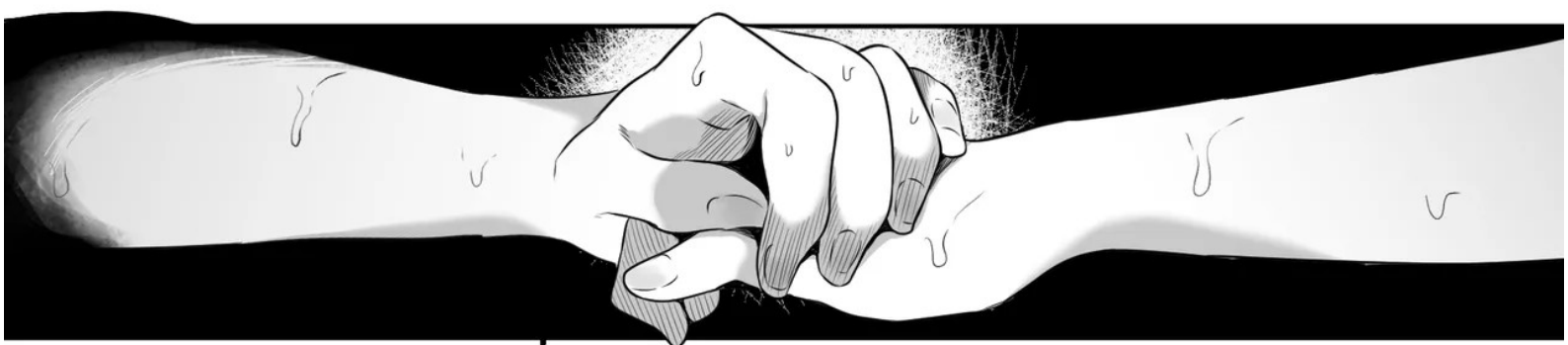
ありがとう  
ごぎいましゅっ



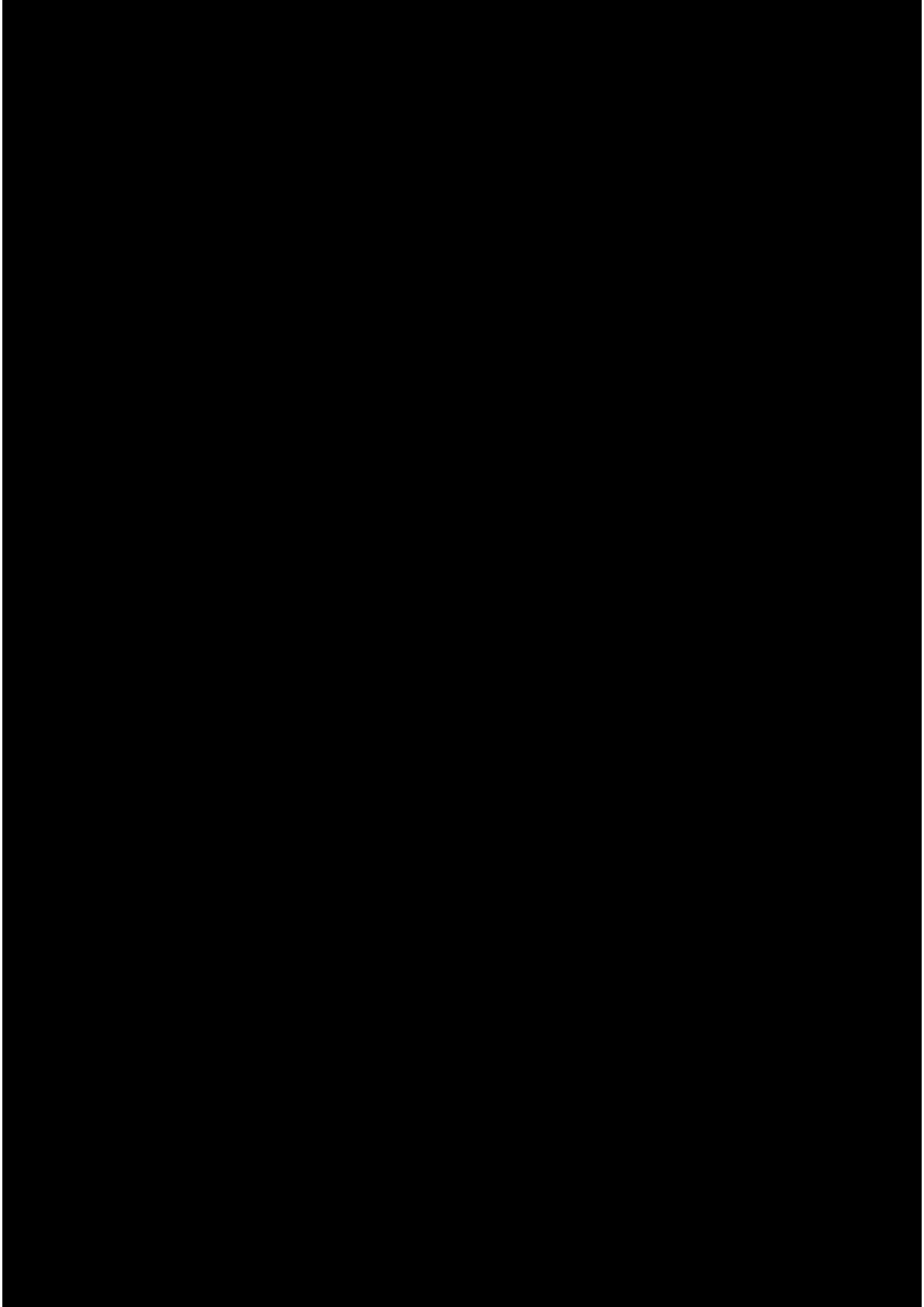
もう  
全部を

委ねて  
しまいたい

あ  
あ  
あ



環由!!



ボクさ

可愛いものが  
好きなんだよね

でも  
あそこには  
全然ないんだ

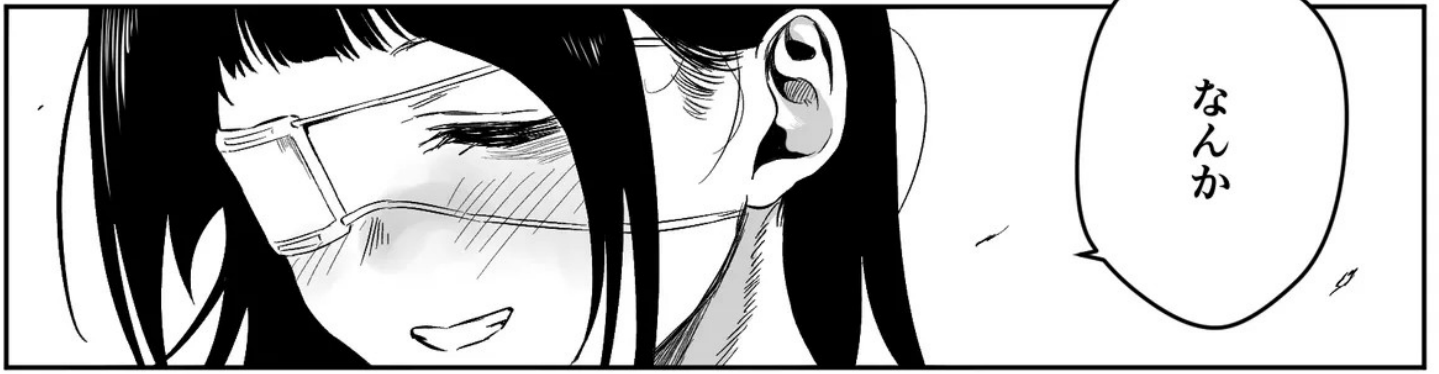
ふふ  
もしかして  
それが  
動機なの？

外には  
いっぱい  
あるよ

可愛いもの

プリキュアとか  
たぶん好きだよ

プリキュア？



なんか



名前がもう  
すでに

かわいいー

